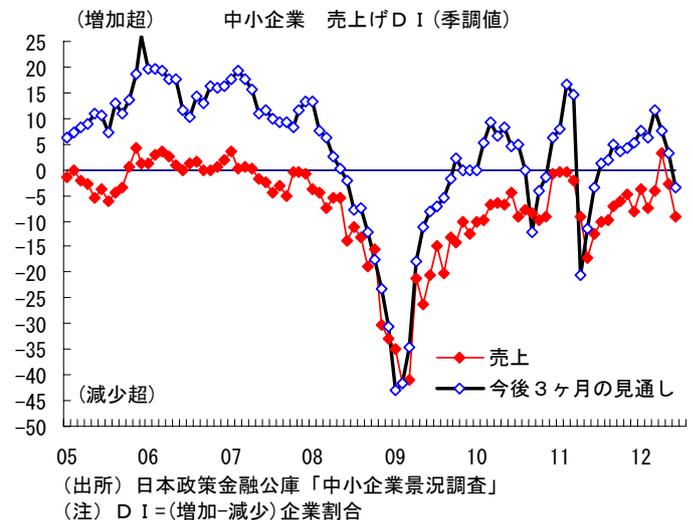
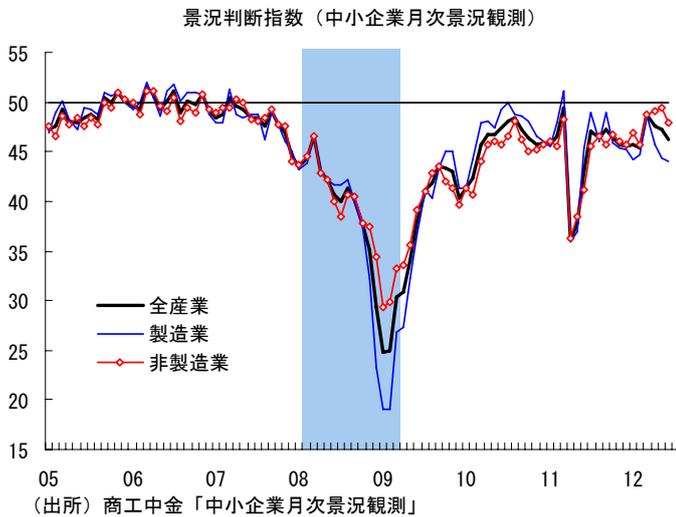


指標名：中小企業の業況(2012年6月)

発表日2012年6月26日(火)

～景況感は回復感に欠ける動き～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525

○景況判断指数：円高等を背景に低下が続く

商工中金から公表された6月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：6月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で46.2(前月差▲1.0pt)と前月から低下した。これで3ヶ月連続での低下となり、景況感指数は3月に一旦円高が修正されたことを受けて大幅に上昇したものの、その後は弱い動きが続いている。低下の背景としては、①円高が再び定着してきたこと、②ギリシャの再選挙を前に世界経済の不透明感が強まったこと、などが挙げられよう。内訳を見ると、製造業と非製造業ともに低下した。特にこれまで改善傾向にあった非製造業が5ヵ月ぶりに低下したことが目立つ。幅広い業種で前月から低下したものの、水準としては依然高く、7月見通しも50.3と高いことから、改善傾向が途絶えたという訳ではなさそうだ。一方で、製造業は3ヶ月連続の低下となった。エコカー補助金制度などの下支えはあるものの、海外経済の減速や再び進行している円高が低下の要因となったとみられる。

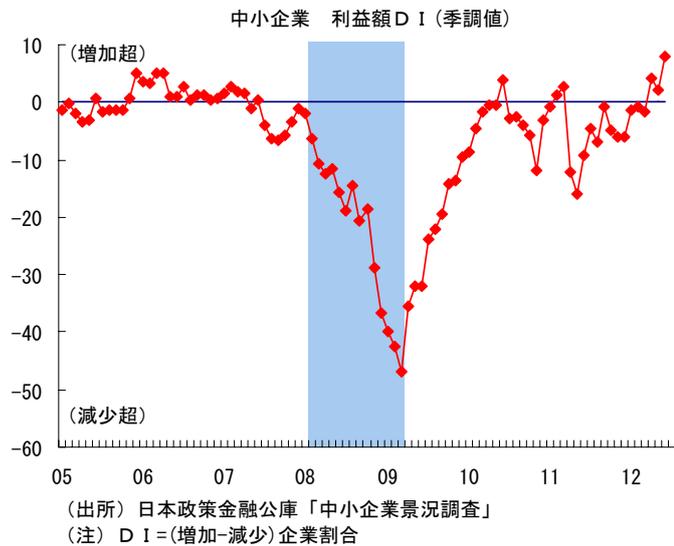
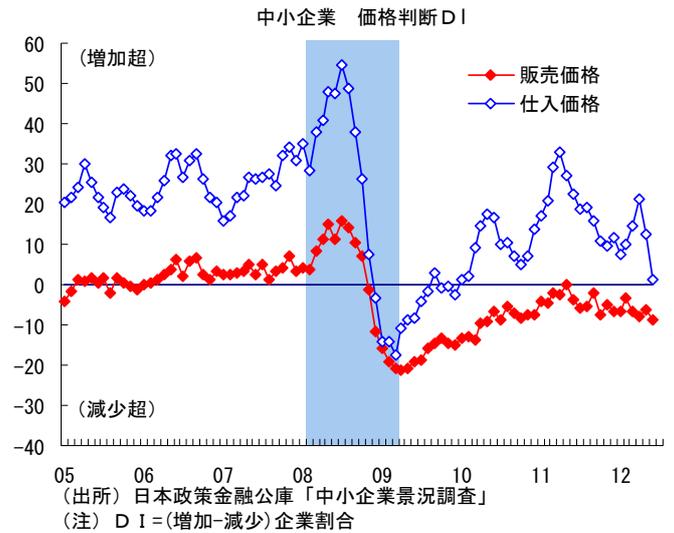
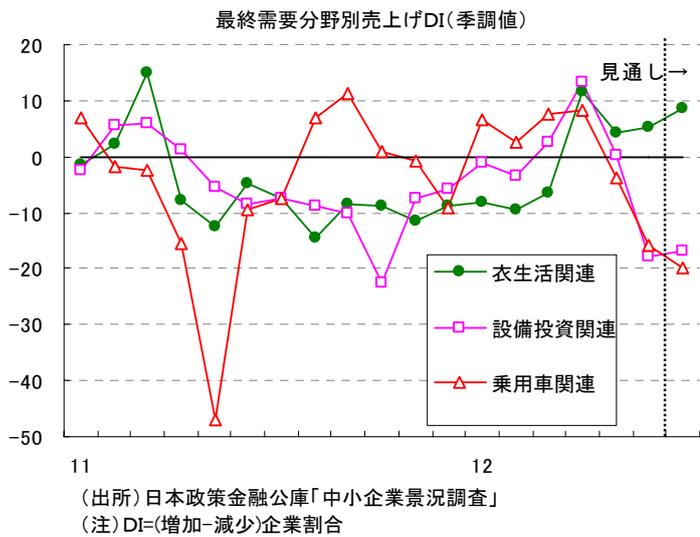
日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：6月中旬)の売上げD I (季節調整値)も前月差▲6.4ptと大きく低下した。最終需要分野別に見ると、衣生活関連が底堅さを保つ一方で、乗用車関連や設備投資関連が大きく低下した。両分野とも2ヶ月連続での大幅低下であることに加え、先行き見通しも低水準となっており、今後の推移が懸念される。

他方、仕入価格D I が足元で低下している。欧州債務危機を背景に原油価格は下落傾向にあり、当面は原材料価格は低調に推移するものとみられる。利益額D I も原材料価格の低下を背景に改善傾向にあり、売上げの減少の影響を原価の低下が和らげる格好となりそうだ。

○中小企業の景況感は力強さに欠ける動きとなる見込み

このように、円高等を背景に景況感は悪化したが、当面はエコカー補助金や復興関連の公共投資が下支えとなるとみられるため、一段の悪化は避けられよう。一方で、製造業については、期待されていた中国経済の回復が遅れていることや、欧州債務危機の影響で円高傾向が継続する可能性が高いことが懸念される。ま

た、非製造業についても、雇用や賃金が伸び悩んでいることに加え、円高や株安が経済活動を停滞させる可能性もある。総じてみれば、中小企業の景況感是一段の悪化こそ避けられるものの、先行きの懸念材料は多く、力強さに欠ける推移となることが予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。